



四国中央市における在宅医療の現状

社会医療法人 石川記念会
石川病院

在宅医療連携拠点センター
遠藤 健介



四国中央市



I ①四国中央市の現状

- 四国中央市も超高齢化社会と言われる段階になっており、平成22年度には、65歳以上が総人口に占める割合の25%を超え、いわゆる団塊の世代の方が65歳を超える、平成24年度以降は、高齢化の傾向はさらに強まると考えられます。

今後、さらに増加が見込まれる一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、認知症対策や高齢者を支える地域づくりが重要な課題となっています。

②四国中央市の基本理念

- 高齢者が住みなれた地域で、
安心して暮らし続ける事が
出来るまち作り



③市の基本理念を重視し目標を設定

- 1 「安全で安心できる暮らしの支援」

高齢者の暮らしを地域全体が支えるシステムの確立を目指す

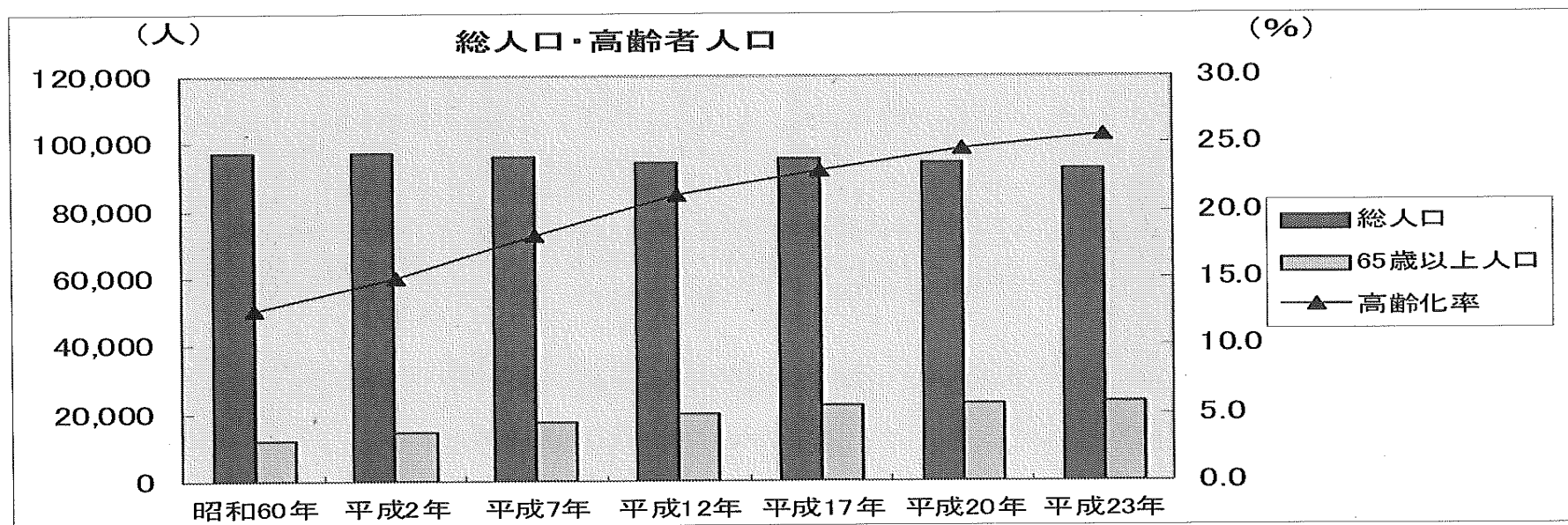
- 2 「生活の質の向上を目指した効果的な支援」

適切なサービスの提供により高齢者の生活を支援する

- 3 「地域で自分らしく、社会参加できる生活の支援」

④四国中央市の高齢化の状況

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成20年	平成23年
総人数(人)	97,005	97,157	95,658	94,323	95,546	93,870	92,272
65歳以上人口(人)	12,294	14,547	17,391	20,010	21,982	23,049	23,617
高齢化率(%)	12,7	15,0	18,2	21,2	23,0	24,6	25,6



※ 平成12年までは、合併前4市町村の合計値。

※ 昭和60年から平成12年までは国勢調査、平成17年以降は住民基本台帳による。

⑤四国中央市における在宅医療の現状

四国中央市人口	約92,272人
65歳以上の方の人数	約23,617人
要介護認定者数	5,312人
H24年度要援護者人数	2,176人
H24年度訪問看護利用人数	167人
H25年度以降訪看利用待機人数	約 2,488人

※ 四国中央市の訪問看護事業所は5件
何らかの事情で、利用できないのが実情である

Ⅱ 5つのタスクを基に

在宅医療連携拠点センターとして考える

- 顔の見える関係作り、カンファレンスの強化
- 医療・介護間の課題解決や負担軽減
- 在宅医療の人材育成
- 地元住民の方への理解や周知の為、講演会開催
- 災害時の備品の整備（復興枠）

Ⅲ 会議の開催

① 10/9 第1回 四国中央市連携会議

- 本事業初となる四国中央市連携会議が開催されました。当日は、行政・医療・介護各方面から127名の方々にご出席頂き、在宅医療連携拠点事業の紹介と、四国中央市の在宅医療連携に関する課題について協議しました。
- 来賓のご挨拶や懇親会の会話の中でも、在宅医療には組織や職種を超えた連携が必要であり、協力していきたいとお言葉を頂きました。なかなか直接会って話す機会が無い医師や同じ職種の方たちとの、顔の見える懇親会を行う事が出来ました。



②12/13 第2回 四国中央市連携会議

①田中センター長による、
都道府県リーダー研修の報告

②拠点事業が災害対策の
復興枠であることを踏まえ、
具体的な展開の為の3つの
WGを立ち上げ



IV 3つのワーキンググループを立ち上げようやく実働的に開始

課 題

24時間切れ目の無い在宅医療体制を整備するために何をすべきか。



- ①グループ
連携シートの作成
- ②グループ
災害時の対応（復興枠）
- ③グループ
地域ガイドマップの作成

①連携シート作成WG

(参加者: 医師、地域包括支援センター、訪問看護ST、
脳卒中地域連携相談員、ケアマネ協議会)

病氣を持ちつつも可能な限り住み慣れた場所で生活できるよう、医療と介護の連携は欠かせない。

24時間の切れ目のない連携のためにも市内で統一されたツールが必要であるとする。



作成による
メリット



統一されたツールを使用することにより、入院の際でも病院への情報不足を減らすことができる。退院後もかかりつけ医、かかりつけ薬局への情報提供が行え、安心して自宅での生活が可能となる。

会議では在宅医療を進めるにあたり、地域生活連携シートを参考に、今後の連携シートについて討議を行った。医療分野の情報欄が少ないため検討が必要であり、医師より、医療機関が使用している書式を参考にしてみてもどうか、シートの記入方法等についての意見を頂き、次回会議にて修正を行っていくこととなる。

医療と介護をつなぐ情報共有

氏名 0 性 生年月日 年齢 介護認定の有無

既往 0

障害の認定等 身障3級

本人・家族の希望 0

特記事項 0

連絡票（医療機関とケアマネジャーの連携）

FAX番号： 000-0000

※発信日 平成 年 月 日

介護事業所 電話番号 FAX番号 ケアマネジャー氏名

当該疾患名 発症日 2012年12月 退院後の疾病管理 疾病の状態

宋養護 経管栄養 最終交換 服薬理解 服薬

覚醒レベル コミ 理

精神障害 (2つまで選べます)

運動機能 障害の状態 部位

基本姿勢 坐位 立位

日常生活行為 摂食状況 食事形態 排泄状況 尿意・便意 入浴状況 入浴状況

連絡票（医療機関とケアマネジャーの連携）

連絡の目的を明確にする

連絡内容

利用者の状況についての報告

ケアプラン作成にあたって、病状などの相談

その他

※《利用者の生活状況》

※《利用者の相談内容》

主治医からの回答内容（※ご記入はFAXに添付してください）

連絡方法

直接会って話をします（面談の時間 月 日 時頃）

電話で話をします（連絡の時間 月 日 時頃 電話してください）

文書で回答します（下記のとおりです）

〈主治医からの回答内容〉

記入日（ 月 日）

②災害時対応WG

(参加者: 医師、警察署、消防署、民生児童委員、調剤薬局、
2次救急病院、訪問看護ST、ケアマネ協議会)

警察・消防関係者、民生児童委員等と協働し災害弱者の把握を行い、
災害対策マニュアルを策定する。また、災害時の在宅医療に必要な備
品を整備する。



作成による
メリット



多職種との連携を図り災害対策マニュアルを作成し周知す
ることにより、災害時の四国中央市民の生存率を上げるこ
とが可能となる。災害発生時、避難所運営などの混乱を減
少させることができる考える。

会議での方向性として、災害の規模によるが、避難所の備蓄の整備
等の焦点に絞った方が、良いのでは？四国中央市の災害計画やマッ
プ等がある。どこも整備を行っているところである。それぞれ個別に
マップ作りを行うのではなく、市が管理している情報を有効に活用でき
るような体制作りが必要なのでは、という意見を踏まえ今後検討して
いく。

災害時、在宅医療に必要な備品整備

- 在宅医療に的を絞って、呼吸器・吸引器の利用状況を把握し、停電等に備えて、災害対策WGにて話し合い、発電機・簡易ベット・担架を購入



災害時対応WGの今後の動き

- 備品を購入後の保管場所の決定・依頼
- 在宅医療に関して、地域での自主避難
- 備品使い方、要支援者の援助方法の周知
- 災害時の通信手段

③ 地域ガイドマップ作成WG

(参加者: 医師、歯科医師、保健推進課、2次救急病院、調剤薬局、
訪問看護ST、ケアマネ協議会)

四国中央市の地域ケア会議において、医療と介護それぞれとの連携を図る上で医院・歯科医院・薬局・訪問看護・居宅介護支援事業所、福祉施設などの各機関を一覧として取りまとめたものが十分ではなく、またその特徴を十分に把握できないことから連携が取りにくいとの意見があった。そのため誰が見ても各施設の機能や特色を把握できるものが必要である為、地域ガイドマップを作成することとなる。

作成による
メリット

医療機関への連絡の際、医師の希望する連絡方法がわかるので連絡をとりやすい。施設により対応できるのか(胃瘻、感染症など)事前に把握できるため、対象を絞って検討することができることにより業務の効率化が図られる。

会議では、掲載する対象を増やすこと、四国中央市内の施設だけでなく四国中央市に来てくれる施設も掲載することで利便性が向上するとの意見があり、今後そのような施設をリストアップしていくことになりました。



病院・医院・事業所等の機能調査を実施

- 四国中央市、約332事業所等の意見を抽出し、各、機能調査を実施作成につなげる。

機能調査票

(問合先)在宅医療連携拠点センター 電話:0896-59-9040 / (締切り):平成25年2月8日(金)投函

●貴事業所の名称

所 名

〒

市町村

国

医療機関

診療科目

訪問診療歯科

訪問診療が可能な時間帯

月(午前・午後)

火(午前・午後)

水(午前・午後)

木(午前・午後)

金(午前・午後)

土(午前・午後)

日(午前・午後)

祝日(午前・午後)

夜間

24時間対応について記載願います

●在宅医療の取り組みについてお伺い致します。

主治医意見書の記載

対応している () していない ()

訪問診療

定期的に訪問している () していない ()

かかりつけ患者の臨時往診

対応している () していない ()

在宅療養支援診療所の届出

有り () していない ()

●医師との面談方法の優先順位 優先順位の高い方から1とし、順番をご記入ください。

直接面談

往診同席

外来同席

電話連絡

FAX連絡

メール連絡

別途窓口がある場合:

備考

●サービス担当者会議(カンファレンス)への医師の参加についてお聞かせください。

●主治医が多種の方々と比較的当該等の対応が可能な時間帯をお聞かせください。

月(午前・午後)

火(午前・午後)

水(午前・午後)

木(午前・午後)

金(午前・午後)

土(午前・午後)

日(午前・午後)

祝日(午前・午後)

夜間

備考

●多種の方々への要望がございましたらご記入ください。

※必ず記入※

★記載内容をガイドマップに掲載:掲載可()/掲載不可()

★記載内容をインターネット公開※経路未定:公開可()/不可()

機能評価表

例

院長名

窓口担当者(代りの方)

TEL:0896-00-0000 FAX:0896-00-0000

E-mail: -@- /★各自でアドレスを交換してください

訪問診療の要請はできれば、訪問診療申込書に必要事項を記載し、受付窓口 坂歯科(TEL 58-2004 FAX 58-5064) へご連絡ください。

窓口を過ぎずに、直接歯科医院へ連絡も可。申込書は宇摩歯科医師会ホームページ <http://umada.org/index/> からダウンロードしてください。

連携ガイドに記載可

例

院長名

窓口担当者(代りの方)

TEL:0896-00-0000 FAX:0896-00-0000

E-mail: -@- /★各自でアドレスを交換してください

訪問診療が可能な時間帯

月(午前・午後)

火(午前・午後)

水(午前・午後)

木(午前・午後)

金(午前・午後)

土(午前・午後)

日(午前・午後)

祝日(午前・午後)

夜間

多種の方々への要望

連携ガイドに記載可

ガイドマップWGの今後の動き

- 新規事業所等の更新
- ネット上で共有したいとの意見がある。
- 課題としては、当事業の事情により、非常に短期間での作成だった。今後の掲載内容の検討が必要である。

V 拠点センターとして 在宅医療に関する地域住民への普及活動

- 講演会の実施
- 在宅医療に関する医療従事者の人材育成
- 多職種連携のあり方について勉強会実施
- 在宅医療連携拠点センターの周知

VI 講演会開催

①10/4 第1回 在宅医療連携講演会

認知症高齢者は増加の一途をたどっており、最近は書籍・新聞・テレビなど様々なメディアで取り上げられるようになり、決して特別な病気ではないことを感じておられると思います。

講演では、便利なものが認知症の方にとっては使いやすいとは限らないため、長期記憶を利用した意味のある行為を生み出せる空間作りが大切なこと、認知症介護現場のお話や患者様やご家族をサポートするために医療・介護従事者が果たすべき役割についてお話がありました。またご自身が訪問された東北の被災地の介護状況に付いて、多岐に渡りユーモアのある楽しい講演会になりました。当日は約240名の方々にご参加を頂きました。



②1/24 在宅介護において、かしこく・安全に利用できる福祉用具フェア開催

福祉用具の事業所3社合同で、カタログでの紹介ではなく、在宅介護の手助けになり、直接触れ、体験し安全に選択できる参加型講演会を実施しました。



③ 1/18

在宅医療の多職種連携勉強会を実施

- 四国中央市全体を変えるには、まず在宅医療に関わる者の意識を変えなくては同じである。

訪問看護や各施設合同の高齢者の看取りを考える会にて、多職種連携の大切さ及び、拠点センターの役割を周知する、勉強会を開催



拠点の取り組み

- 在宅医療に関して、顔の見える関係づくりの足がかりとなる物を作った。
- 地域に根付いたガイドマップや、在宅医療の資料作成の基礎は築けた。
- 災害対策に他方面から、協力して頂き地域全体が動きだした。
- 多職種連携により、発想や視点を見い出せ、対策を得る事ができた。
- 各WGにて協議した内容は拠点センター便りにて事業報告



ま と め

- 四国中央市連携会議を定期的に行い、顔の見える関係づくりを継続させる
- 医療・介護を効率的に行える在宅医療のシステム構築
- 災害が発生しても在宅医療の地域を自分たちで守れる取組
- 在宅医療に関する講演会を開催し住民の方へ協力及び周知

※住みなれた地域で、安心して暮らし続ける事出来るまち作りを構築し、拠点事業を存続させていく。

ご清聴有難うございました。

